

自分で『ぼうさいハンドブックたいむくん』を作成自分専用の防災行動を計画できるように

自分に合わせて書き込める ハンドブック

『ぼうさいハンドブックたいむくんつくろうわたしのタイムライン』は、薬師寺ゼミの学生が3年次から取り組み、2019年度卒業前に完成させたハンドブックです。

2018年、年間降水量が少ない「晴れの国」岡山を西日本豪雨が襲いました。ゼミ生が研究のテーマを決めている頃でした。そこで、テーマは「災害」と決め、大きな被害にあった倉敷市真備町の事業所に行き、相談支援専門員さんや生活介護事業所の方に当時の話を聞かせていただきました。「知的障害のある人は災害時の行動を判断することが難しいため、逃げ遅れてしまうことがある」ということが分かり、「地域で暮らす知的障害

のある人自身が防災行動を考え、災害時に適切に避難できる必要がある」ということを研究テーマとし、ハンドブックの作成を目標にしました。

その後、東日本大震災で被災した宮城县と千葉県、阪神淡路大震災で被災した兵庫県へ聞き取り調査に行き、ご本人や支援者の方からお話をうかがいました。

その結果、①一人ひとり障害特性が異なる、②災害の起きる場所ごとに地域特性が異なる、③災害ごとに避難経路や避難場所が異なる等ということが明らかになりました。そこで、ハンドブックには、「わかりやすい表現や絵を用いる」、「記入式」、「タイムライン」、「自分専用」これら4点を盛り込むことになりました。ご本人が支援者や家族と共に防災行動を考え、自分で作るハンドブックというコンセプトになりました。

家族や支援者と共に 日頃から考えよう

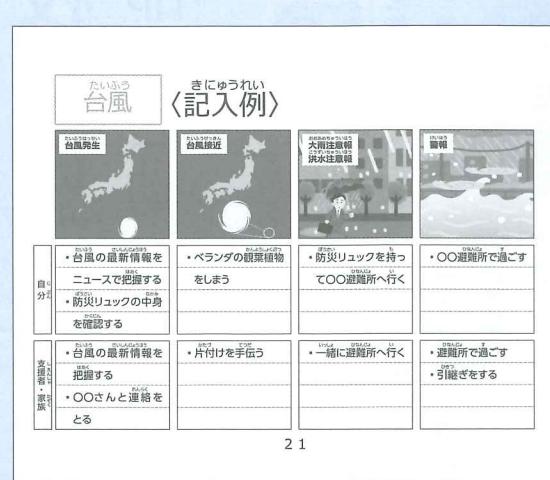
ハンドブックは、「まもりたいむ」「そなえたいむ」「たすかりたいむ」「にげたむ」「すごしたいむ」の5部で構成されています。

「まもりたいむ」では自分自身のこと、手帳や薬、緊急連絡先を記入します。避難中や避難先で必要に応じて協力者が確認できます。

「そなえたいむ」は、まず防災リュックについて説明しています。ご本人から、「防災リュックが重くて持ち運ぶのが大変だった」という声があり、入れる物は最低限のものを挙げ、加えて自分に必要なものを、記入できるようになっています。ハザードマップを貼付できるページもあります。防災訓練は、自分たちのことを



作成にあたり、知的障害のあるご本人に聞き取り調査



「ぼうさいハンドブックたいむくん」

ぼうさいハンドブックたいむくん 検索▶



https://mimasaka.jp/undergraduate/welfare-field/social-welfare/topics/200722_timekun_download/

地域の人々に知つてもらうためにも、積極的に参加するように伝えています。また、避難所訓練も勧め、災害ごとの避難場所を記入できるようにしています。なお、台風等事前に大きな被害が予想される場合は、あらかじめ遠くへ避難する「広域避難」を勧め、その際の避難場所も記入できるようにしています。

「たすかりたいむ」では災害が起きる前の準備と対策、起きたときの行動について伝え、その際に自分でできる対策や行

動を記入できるようにしています。

「にげたいむ」では、実際に災害が起きたとき、自分の命を守るためにタイムラインを作成します。台風、水害、大地震、津波、火災の5つの災害ごとに避難行動等を考えて書き込みます。ご本人の欄と支援者・家族の欄があり、お互いに確認しながら記入していきます。

「すごしたいむ」では、避難所では様々な人と一緒に過ごさなければならないこと等について伝えています。また、福祉

避難所についても説明しています。

最後のページには、毎年ハンドブックを見直すことを勧めており、見直すことで災害について意識してもらうことを期待しています。また、裏表紙には「SOS」と大きく表示し、裏表紙をめくったページには「手伝ってほしいこと」などが書き込めるようになっています。実際に災害が起きて困ったとき、周りの人助けを求めるためのものです。

ハンドブック作成には多くの方からご協力やアドバイスをいただきました。知的障害のある人の防災・減災を考えている人は多いようで、ラジオや新聞、雑誌でも取り上げていただきました。知的障害のある人は、ご自身で判断するのが難しいことが多々あります。そのため、周りの支援者や家族が意識をもつて日頃から共に「災害について考える・話し合う」ことがまず何より大切だと思います。ハンドブックは美作大学のホームページからダウンロードできます。必要なところをご活用ください。